

# 平成 25 年度水産研究成果情報

課題名: 有明海佐賀県海域におけるタイラギ垂下養殖技術の開発

[背景・ねらい]=現状

タイラギは、有明海佐賀県海域におけるヘルメット式潜水器漁業の主要漁獲対象種であるが、2001 年以降原因不明の「立ち枯れ斃死」や低塩分・貧酸素の影響による斃死の発生等により漁獲量が低迷し、タイラギ漁業者の経営が極めて厳しい状況となっている。

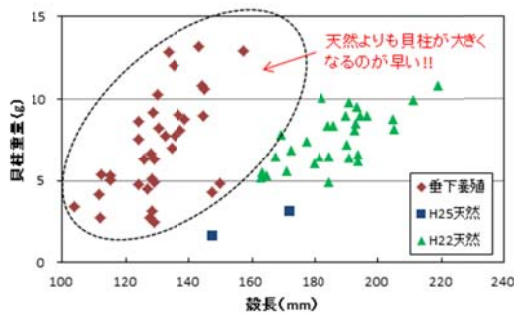
そこで、タイラギ漁家の経営安定を図るため、有明海佐賀県海域における、タイラギの適正な垂下式養殖技術の開発に向けた試験を行った。

[成果]

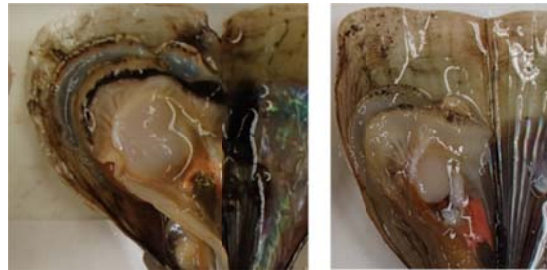
(1) 有明海湾奥中央部で採捕したタイラギ稚貝を用い、太良町竹崎沖の養殖筏において平成 25 年 7 月～26 年 2 月まで垂下養殖試験を実施したところ、2 月時点での貝柱歩留まり\*が天然のタイラギよりも 1.5～4.3 倍大きくなることを確認した(H25 の天然の貝柱歩留まりが 3.2～3.7%であったのに対し、垂下養殖は 5.8～13.8%)。

※貝柱歩留まり…全体重量に占める貝柱重量の割合

(2) 夏季の斃死により、生残状況が不安定であった(生残率 6.7%～86.7%)。



タイラギの殻長と貝柱重量との関係



貝柱の比較

(左: 垂下養殖したタイラギ、右: 天然のタイラギ)

[課題・問題点]

タイラギ垂下養殖による貝柱の肥育効果については一定の成果が得られたものの、夏季の斃死軽減対策、養殖に用いる垂下ネットの付着物防止対策を講じる必要がある。また、漁業者の収入アップを図るため、タイラギの収容数を増大させる垂下方式を考える必要がある。

[今後の対応]

- ・斃死軽減対策(タイラギの早期垂下)、付着物防止対策(垂下ネットへのシリコン塗布)の実施
- ・タイラギの収容数をアップさせる垂下方式の開発 等

[その他]

研究期間: 平成 25 年度～

研究担当者: 資源研究担当 福元 亨